

国際希少野生動植物種に追加又は削除する種の概要について

種名の横に※がある種は個体識別措置を要するものとして省令で規定

1. 国際希少野生動植物種に追加する種の概要

(1) *Aonyx cinerea* (コツメカワウソ) ※

1) 分類及び種名

食肉目 いたち科

コツメカワウソ

2) 分布状況

南アジアのインドからラオス、マレーシア、ミャンマー、カンボジア、 Bangladesh、インドネシアからフィリピンのパラワン州、中国南方を含む東南アジアまで、幅広く分布している。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

生息地の消失、ペット使用、毛皮の取引等のための密猟により、個体数が現在急速に低下している。本種の全体の個体数は、過去30年間で30%以上減少したと推測されている。

(2) *Lutrogale perspicillata* (ビロードカワウソ) ※

1) 分類及び種名

食肉目 いたち科

ビロードカワウソ

2) 分布状況

南アジアのインドからラオス、マレーシア、ミャンマー、カンボジア、 Bangladesh、インドネシアからフィリピンのパラワン州、中国南方を含む東南アジアまで、幅広く分布している。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

生息地の消失、ペット使用、毛皮の取引等のための密猟により、個体数が現在急速に低下している。

(3) *Balearica pavonina* (カンムリヅル) ※

1) 分類及び種名

つる目 つる科

カンムリヅル

2) 分布状況

セネガル・ガンビアからエチオピア中央部、ウガンダ北部、ケニア北西部にかけて分布し、43,000から70,000個体が生息していると推定される。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

開発等による生息地の消失の悪化の他、食用、羽、伝統的な薬品目的での生体の捕獲が行われている。

(4) *Ceratophora erdeleni* (ケラトフォラ・エルデレニ)

1) 分類及び種名

とかげ亜目 きのぼりとかげ科

ケラトフォラ・エルデレニ

2) 分布状況

*Ceratophora*属に5種確認されており、いずれもスリランカの固有種で、それぞれ同国内の特定の地域に生息が限られており、特異な気候や生息環境が必要とされ、全種が絶滅の危機にある。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

主な脅威は農地拡大による生息地の喪失である。また、特異で限られた生息地、低い繁殖率、小規模個体群であること等の理由により絶滅の危機に瀕している。また、ペットとしての需要の存在が指摘されている。

(5) *Ceratophora karu* (ケラトフォラ・カル)

1) 分類及び種名

とかげ亜目 きのぼりとかげ科

ケラトフォラ・カル

2) 分布状況

*Ceratophora*属に5種確認されており、いずれもスリランカの固有種で、それぞれ同国内の特定の地域に生息が限られており、特異な気候や生息環境が必要とされ、全種が絶滅の危機にある。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

主な脅威は農地拡大による生息地の喪失である。また、特異で限られた生息地、低い繁殖率、小規模個体群であること等の理由により絶滅の危機に瀕している。また、ペットとしての需要の存在が指摘されている。

(6) *Ceratophora tennentii* (ケラトフォラ・テンネンティイ)

1) 分類及び種名

とかげ亜目 きのぼりとかげ科

ケラトフォラ・テンネンティイ

2) 分布状況

*Ceratophora*属に5種確認されており、いずれもスリランカの固有種で、それぞれ同国内の特定の地域に生息が限られており、特異な気候や生息環境が必要とされ、全種が絶滅の危機にある。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

主な脅威は農地拡大による生息地の喪失である。また、特異で限られた生息地、低い繁殖率、小規模個体群であること等の理由により絶滅の危機に瀕している。また、ペットとしての需要の存在が指摘されている。

(7) *Cophotis ceylanica* (セイロンオマキキノボリアガマ)

1) 分類及び種名

とかげ亜目 きのぼりとかげ科

セイロンオマキキノボリアガマ

2) 分布状況

スリランカの固有種で、同国中央部の標高1,700m以上の地域の500km²以下の範囲内に生息する。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

主な脅威は森林破壊と生息地の減少・分断化であり、それに加え国際的なペット産業のための違法捕獲が挙げられる。

(8) *Cophotis dumbara* (コフォティス・ドゥムバラ)

1) 分類及び種名

とかげ亜目 きのぼりとかげ科

コフォティス・ドゥムバラ

2) 分布状況

スリランカの固有種で、同国の標高1,400m以下にある面積100km²の地域に限定的に生息する。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

主な脅威は森林破壊と生息地の減少・分断化であり、それに加え国際的なペット産業のための違法捕獲が挙げられる。

(9) *Gonatodes daudini* (ダウディンイロワケヤモリ)

1) 分類及び種名

とかげ亜目 やもり科

ダウディンイロワケヤモリ

2) 分布状況

セントビンセント・グレナディーンのエニオン島の固有種で、ひとつの個体群のみが確認されている。当該個体群は53ha未満の傾斜地（標高0～ 300m程度）に生息している。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

ペット目的等の商業用の過剰採取が、本種の野生個体群に対する最も大きな脅威のひとつと考えられる。その他、外来種による捕食や、山火事、森林開発等による影響を受けている。

(10) *Cuora bourreti* (ラオスモエギハコガメ) ※

1) 分類及び種名

かめ目 いしがめ科

ラオスモエギハコガメ

2) 分布状況

ベトナム中部及びラオスの一地方にのみ分布する。本種は主として陸棲で、高原の林冠が密に閉じた湿度の高い常緑森林に生息する。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

本種にとっての最大の脅威は、国際的ペット取引やアジアの食品市場に向けた輸出の為の過剰な採集である。

(11) *Cuora picturata* (カンボジアモエギハコガメ) ※

1) 分類及び種名

かめ目 いしがめ科

カンボジアモエギハコガメ

2) 分布状況

ベトナム南部の固有種で、特定の高原の斜面の限られた地域にのみ分布する。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

本種にとっての最大の脅威は、国際的ペット取引やアジアの食品市場に向けた輸出の為の過剰な採集である。

(12) *Mauremys annamensis* (アンナンガメ) ※

1) 分類及び種名

かめ目 いしがめ科

アンナンガメ

2) 分布状況

ベトナムの固有種で、沼地や流れの緩やかな小川に生息している。現在、本種の生息地はこの分布域内に孤立して点在している。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

食用又はペット目的の商業的利用のための採集の他、生息域のベトナム戦争時の枯れ葉剤汚染、農薬、産業汚染、汚水の流入による生息環境の悪化が生じている。

(13) *Geochelone elegans* (インドホシガメ) ※

1) 分類及び種名

かめ目 りくがめ科

インドホシガメ

2) 分布状況

インド、パキスタン、スリランカのみに分布する。主として開けた乾燥した藪地に生息するが、低木林、草地、海岸の藪地、半砂漠等でも見られる。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

生息地の消失、環境破壊、断片化の他、ペット目的の商業的利用のための違法取引による影響を受けている。

(14) *Malacochersus tornieri* (パンケーキガメ) ※

1) 分類及び種名

かめ目 りくがめ科

パンケーキガメ

2) 分布状況

ケニア、タンザニア及びザンビア北部のみに、不連続に点在して分布する。適切な割れ目のある岩場という特異な環境のみに生息するため、分布域内でも一部に偏って分布している。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

国際的なペット取引目的での違法かつ過度な採集が行われている他、生息地の破壊による影響を受けている。

(15) *Achillides chikae hermeli* (アキリデス・キカエ・ヘルメリ)

1) 分類及び種名

ちょう目 あげはちょう科
アキリデス・チカエ・エルメリ

2) 分布状況

フィリピンの西中央部に位置するミンドロ島の固有種。標高1800m以上の山地林に生息する。ミンドロ島北部のハルコン山（標高2580m）と、ミンドロ島南部の（2488m）バコ山でのみ報告がある。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

開発等による生息地の破壊が生じている他、すでに附属書 I に掲載されている *Papilio chikae* を本亜種と偽り国際取引をしている例が確認されている。

(16) *Parides burchellanus* (パリデス・ブルケルラヌス)

1) 分類及び種名

ちょう目 あげはちょう科
パリデス・ブルケルラヌス

2) 分布状況

ブラジル固有種で、同国内の標高800m~1100mの間にある地域の川べりの土手斜面に主に生息する。

3) 絶滅のおそれを生じさせている要因

森林伐採等による自然生息地の分断化や改変による影響を受けている他、ブラジル国外において標本取引が確認されている。

2. 国際希少野生動植物種から削除する種の概要

(1) *Leporillus conditor* (コヤカケネズミ)

1) 分類及び種名

齧歯目 ねずみ科

コヤカケネズミ

2) 分布状況

1930年代に南オーストラリア州のフランクリン島の個体のみを残してオーストラリア大陸部で絶滅した後、同国内に再導入された結果、大陸部の様々な場所で個体群が定着している。

3) 附属書 I からの削除理由

外来生物による捕食等の潜在的な脅威は存在するものの、本種は明示的に取引されておらず、取引が本種の存続に対する脅威となっているか、その可能性があるという証拠はない。需要についてもその疑いや潜在性を示すものはなく、将来に商業取引される可能性も考えられない。

(2) *Pseudomys fieldi praeconis* (シャークベイネズミ)

1) 分類及び種名

齧歯目 ねずみ科

シャークベイマウス

2) 分布状況

オーストラリア固有種であり、オーストラリア大陸部及び一部の島嶼から19世紀後半までには絶滅し、自然下で存続している個体群は同国内のひとつの島のみである。

3) 附属書 I からの削除理由

野生化した動物による捕食の影響を受けているが、本種は明示的に取引されておらず、取引が本種の存続に対する脅威となっているか、その可能性があるという証拠はない。需要についてもその疑いや潜在性を示すものはなく、将来に商業取引される可能性も考えられない。

(3) *Xeromys myoides* (クマネズミモドキ)

1) 分類及び種名

齧歯目 ねずみ科

クマネズミモドキ

2) 分布状況

オーストラリア北部とパプアニューギニアにパッチ上に生息している。

3) 附属書 I からの削除理由

主な脅威は淡水及び潮間帯の生息環境の損失、劣化、断片化であり、本種は明示的に取引されておらず、需要についてもその疑いや潜在性を示すものはなく、将来に商業取引される可能性も考えられない。

(4) *Zyzomys pedunculatus* (マクドネルイワネズミ)

1) 分類及び種名

齧歯目 ねずみ科

マクドネルイワネズミ

2) 分布状況

オーストラリア固有種で、現在は同国内の標高 950m 以上の珪岩でできた尾根の限られた場所に生息する。

3) 附属書 I からの削除理由

主な脅威は広域の野火とノネコによる捕食であり、明示的に取引されておらず、需要についてもその疑いや潜在性を示すものはないため、将来に商業取引される可能性も考えられない。